

大法堤

(だいほうづつみ)



満水時の大法堤

明治40年10月工事中写真



ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県東伯郡琴浦町

□ため池の特徴

1874年森藤村の区長となった慶次郎は、荒れ地を開墾し、新田開発を行いました。しかし、新田開発に必要な大量の水が確保できなかったため、1903年にため池工事に着手し、村民も大いに期待し働いたことから、明治45年(1912年)に大法堤(当時は、明治池と呼ばれていた)と15町歩の水田を完成させることができました。

周囲は山林に囲まれ、湖面には風車が映り、独特の景観を呈しています。

ため池の水は、集落内を通過することから防火用水としても活用され、地域にとって欠かせないため池となっています。

関連情報

仲ノ田ため池

(なかのたためいけ)

貯水池全景



住民の憩いの場として活用されているため池周辺



ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県八頭町

□ため池の特徴

江戸時代、郡家村は丘陵地で用水が確保できず、米作りのできない貧しい村でした。見かねた豪農安藤家が私財を投じ、1820年から4年かけて11kmもの山腹水路「安藤井手」を建設し台地に水を引き、1860年には仲ノ田ため池を築き、遂に15haの新田開発を実現させました。

現在も仲ノ田ため池は、周辺の水田20haに対する用水供給を円滑に行う調整池として重要な役割を担っています。

池の周囲はオアシス公園として整備され、住民の憩いの場となり、また生態系ネットワークの要となっています。

地元住民により組織された「郡家つつみ会」が、定期的に草刈・清掃活動を行い、地域全体でため池の保全が行われています。

今も隔年9月には、安藤家が全財産を提供し成し遂げた大偉業を伝える「安藤祭り」が町を挙げて開催されています。

関連情報

鳥取県ホームページ

http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/117528/www.pref.tottori.jp_kikakubu_jiritu_tameike_pdf_19.pdf

狼谷溜池

(おおかみだにためいけ)

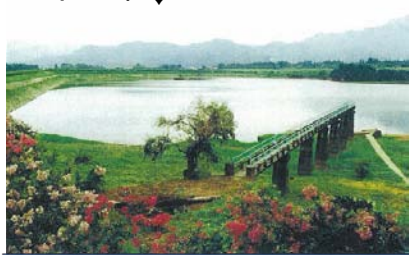
貯水池全景



水面に映る逆さ大山



百日紅↓



水落とし↑

ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県倉吉市

□ため池の特徴

狼谷溜池は、国立公園「大山」の東すそ野にある天神野台地の開拓田を潤すために造られた貯水池で、大正11年から13年にかけて造成されました。現在も、水田150haのかんがい用水として使用されています。

澄み切った青空の下池面に逆さに映る秀峰「大山」の姿は格別に美しく、いつしか「大山池」と呼ばれ、鳥取県から、因伯の名水「ふれあいの水辺」として指定されています。

冬場には、無数の渡り鳥が静かな池面に羽を休め、飛来地として重要な役割を果たしています。また、地域に生息する「鱒(ます)」の休息・産卵を行うなど生態系ネットワークの要ともなっています。

晩秋の落水時には、放流していた鯉、鮒などを地域住民が大勢で泥まみれになって手づかみで取り合うのが恒例行事となっており、都市住民も参加して交流も行われています。

ため池への注水路の落差を利用して小電力発電所が設置されており、天神野開拓の歴史やため池の施設と共に、地元小中学生の貴重な学習教材として活用されています。また、消防活動の水源としても利用できるよう消防署と契約が取り交わされており、溜池は地域で多様な役割を担っています。

関連情報

鳥取県ホームページ

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/336476/daisenike.pdf>

大成池

(おおなるいけ)



大成池



静観で美しい景観



↑大成池から
下流の水田へ



落水イベント↓

ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県西伯郡伯耆町

□ため池の特徴

丸山集落の上流、標高360mに位置し、外周510m、水面の面積1.69ha、貯水量37,600トンを有し、湧出する大山の伏流水を水源とする豊富で安定したかんがい用水として、丸山集落内の26haの水田はもとより、下流域の八郷地区の水田200haを潤し、水稻の生産安定やブランド化に寄与するとともに、集落内での自主的な研究活動や集落営農の取組み、白ねぎ、スイカ等の多様な水田農業の展開を支えている。

秀峰大山を望み、地域の先人の先見性と努力によって、赤松の美林やコナラ、クヌギ等に囲まれた静観で美しい景観と清流と豊かな自然環境が保持され、周囲には、年間20万人が来訪するホテルや260戸の別荘の建設、26戸62名の移住定住にも結びついている。

そして、このため池を会場に、毎年春には、丸山集落主催の「大成池ふれあい祭」が開催され、多くの来場者が訪れるなど、都市と農山村の交流の場ともなっている。

このように、丸山集落の有する「大成池」は、地域の水田農業を支え、美しい景観と環境が保全され、多くの人の集まる「憩いの場」、「ふれあいの場」、そして「癒しの場」として親しまれているとともに、地域とのかかわりが深く活性化の核となっている。

関連情報

伯耆町ホームページ

<http://www.houki-town.jp/>

松尾池

(まつおいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県西伯郡大山町

□ため池の特徴

松尾池は山陰の秀峰、孝霊山の麓にあり、およそ300年前に築造されたと言われています。その後、明治年間に増高工事が行われ、現在は下流に位置する富岡、安原、保田等の集落周辺の水田等に用水を供給しています。

主要農産物としてコシヒカリ、ひとめぼれのほか、ブロッコリー、白ネギやたばこなどの栽培が行われており、特に大山町産のブロッコリーは、大山が育む「山の幸」として、収穫量西日本一を誇っています。

松尾池は、妻木晩田遺跡のある晩田山丘陵にあり、遺跡事務所では遺跡整備を行っている一部地区を公開し、トレッキングや写生会などのイベントを開催しています。

また、ため池の堤には休憩施設があり、訪れる人や地域の憩いの場として活用されています。

関連情報

赤松池

(あかまついけ)



全景



「お初伝説」
とお初を祭る祠



ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県西伯郡大山町

□ため池の特徴

赤松池の築造は、江戸時代1680年頃といわれ、以来数回の改修を経ながら、長年利用されており、いまだ完全に干上がったことはないと言われています。

赤松地区では、稲作のほか、鳥取県西部の特産品である白ねぎの栽培が盛んで、ため池は地域の農地34haに欠かせない水源となっています。

「お初伝説」ゆかりの地として古くから近隣住民に親しまれており、池には今も「お初」を祭る祠があります。

この池は、自然に発生した凹地の水溜りを利用して堤防を築いたもののようで、底樋より下の水深が30m以上もあるといわれ、昔から蛇がすむ神池と言い伝えられてきました。

最近では穴場の桜スポットとして注目され、桜と池の水面そしてその周りの山々を合わせた景色は絶景です。

また平成15年にカヌーの艇庫が整備され、学校の課外行事や親子カヌー教室など、レジャー利用も盛んになっています。

関連情報

鳥取県HP

「お初伝説」(鳥取県HP)

大山町HP

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?itemid=26125>

<http://yokoso.pref.tottori.jp/dd.aspx?menuid=1865>

<http://www.daisen.jp/>

大沢池

(おおさわいけ)



全景



遊歩道

唐川湿原の
カキツバタ
群落



ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県岩美郡岩美町

□ため池の特徴

大沢池は、江戸時代(1863年)に小倉勝次郎が地元の農業発展のために、巨額の私財をなげうって築いたため池で、併せて周辺の山野開拓も行われました。現在は農地40haの農業用水の供給源となっています。

岩美町には、自然の博物館とも言われる唐川湿原があり、カキツバタの群落のほか100種の湿原植物が自生し、4月から9月にかけて様々な花が咲き誇っています。

また、世界最小のトンボに属するハッチョウトンボの生息地ともなっており、大沢池はこの湿原を育り育てる命の源となっています。

唐川湿原は、昭和19年に国の天然記念物に指定され、昭和53年には鳥取県自然環境保全地域にも指定されました。

ため池の管理全般は大沢池水利組合で行っており、農業利用だけでなく唐川湿原(カキツバタ群落)の保全の観点から、その管理を受け持っています。

また、1995年から96年に行われた県の水路工事でも、コンクリート水路に穴をあけて水が土にしみ込むようにして湿原を守る工夫を行っています。

関連情報

大堤池

(おおづつみいけ)



全景



うぐい突き

ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県鳥取市

□ため池の特徴

大堤池は、420年前の鹿野城主、亀井茲矩(これのり)の時代に新田開発が行われ、その水不足を解消するために造られたため池で、現在は約86haの農地の主水源として利用されています。

鹿野町から気高町に流れる河内川はその昔、逢坂谷を流れていたと考えられ、「掘れば河原の石が出てくる」と地元の人が言うように、逢坂谷は水の便が大変悪く稲作には適さない地域でした。

このため、新田開発による水不足を解消するため、領民の多くが携わって谷間をせき止めてため池をつくり、川をせき止めて井手をつくりました。(井手は用水路。鹿野町の鷲峰地内で河川をせき止め一番井手から三番井手までつくり、三番井手が大堤に流れ込んでいます。)

茲矩公は、この大堤池を利用し鯉、鮒、ウグイなどを養殖したらしく、今でも春に地元小学生が鯉などの稚魚を放流し、秋10月に行われる大堤の水抜きでは、放流した魚の捕獲と底にたまった泥やゴミなどを取り除くために、地元住民など大人から子供まで集い「うぐい突き」がにぎやかに行われています。

関連情報

うぐい突き: 竹で底のない樽型に編んだ「うぐい」と呼ばれる道具を使った漁法が用いられ、これは、シャム(現在のタイ)から学んできたもので、今でも東南アジアで盛んに行われているようです。

※亀井茲矩は、新田開発、林業、牧畜、漁業などの産業振興のほか、東南アジアの国々と貿易を行って、領民の豊かな暮らしに努めた城主です。